

稲雲

臨時号

発行
広報委員会

^^^ 平成21年度 B総会のご案内 vvv

来る十一月三日に、平成二十一年度 早大理工漕艇部OB会 総会を開催いたします。今年も同期の方などお誘い合わせの上、ご参加のほどよろしくお願ひ申し上げます。

【日時】 十一月三日 午後零時～午後三時

【会場】 大隈会館 N棟3F

【会費】 五千円

式次第

1、 会長挨拶

2、 議案審議

- 2 1) 役員承認の件(副会長、監督、助監督)
 - 2 2) 平成21年度活動報告・決算承認の件
 - 2 3) 平成22年度活動計画・予算案の件
 - 2 4) 規約改定案に関する件
 - 2 5) 役員会に関する件
- ### 3、 報告事項
- 3 1) 現役活動報告
 - 3 2) 艇処分の件
 - 3 3) 年間スケジュール案

閉会の後、椅子を片付け懇親会に移ります。

^^^ 寄稿 vvv

「時を告げるのではなく、時計をつくる」

四十四年卒 副会長 塚田 修

皆様方で読まれた方も多いかも知れませんが「時を告げるのではなく、時計をつくる」は、「ビジョナリーカンパニー」ジェームス・O・コリンズ著の第二章のタイトルになっている言葉です。はじめに本を読んだ時、この言葉に何か違和感がありました。しかし、今回の私の考えを説明するには最適のように思えますので使わせて頂きます。多少長くなりますが一部引用します。「すばらしいアイデアを持って、すばらしいビジョンを持ったカリスマ的指導者であるのは、「時を告げる」ことであり、一人の指導者の時代をはるかに超えて、いくつもの商品のライフサイクルを通じて繁栄し続ける会社を築くのは、「時計をつくる」ことである。」とあります。この内容について色々解釈もあるかと思いますが、簡単に言うと、会社経営において、短期の売り上げ、利益の追求(「時を告げる」)に力を入れるか、または、組織力の強化に力を入れる(つまり「時計をつくる」)かについての話であり長期成功企業は後継者の育成と組織構造(インフラ)の強化に焦点を絞っている、という話のようです。優秀な人材の育成に集中し組織力の整備と制度化に努めることは、回り道であるが、長期の成功を達成する早道であると膨大なデータ分析研究の結果から主張したのです。この話は組織の運営という点で、理工ポート部の状況に当てはめて考えることが出来ると思います。単純化して言えば「レースで高順位を目指す運営する」か、「長期に発展する組織の基礎作り、体制の強化」に力を入れるかということです。しかし、重要なことは、この2つは二律背反の関係にあるわけではないということです。

現在、理工ポート部の現役は、一年生 5名、二年生 ゼロ、三年生 2名、四年生 2名、大学院生一年 5名、大学院生二年生 2名です。近年、徐々に人数が減ってきたということです。人数減少の理由はいろいろあると思います。昨今の学生気質も影響あるでしょうし、「部室」が理工キャンパスからなくなり高田馬場のメインキャンパスへ移動したことも大きいと思います。この現役の状態は、人数の絶対的少なさと、学年構成のいびつさから見て危機的です。

お金の面を見ますと現役支援のためにOB会費より年間約100万近く

支出しています（艇庫代 50 万円 + 現役費用約 20 万円 + 艇の減価償却費約 30 万円）。これは現在の O B 会収入の約 2/3 に当たります。来年以降も部員数がある程度まで増えない限りこの支援比率は増加の傾向をたどると思われ、会計の小林さんの記録ではここ 7、8 年同様な傾向です。

そこで昨年 11 月の総会以来、高見会長を中心に、原川、澤田、塚田副会長の体制で様々な活動を実行してきました。幅広い O B に参加してもらえようように 8 つの委員会を作りました。カッパ内の名前はその委員会の委員長ですが、1) 環境改善委員会（高見）：主に部室の実現と練習場の確保、2) 現役支援委員会（坂本）：今年は新人勧誘活動の支援、現役とのコミュニケーション、3) 財政委員会（平野）：収入の増加など、4) O B 会則整備委員会（大枝）：会則と実行が一致するようにする、5) O B 催事委員会（柴山）：今年は 8 月 9 日現役激励バーベキューを戸田で開催、6) 50 周年記念委員会（原川）：2011 年 11 月 3 日リーガル・ロイヤルホテル開催決定、7) 理工ポート部理念委員会（金谷）：O B 会理念作成と現役とのすり合わせ、8) 広報委員会（瀧本）：ホームページの整備、メールアドレスの整備、広報活動強化です。各委員会は 4、6 名の方々に委員になってもらい活動してもらっています。今年は、3 月、6 月、9 月と 3ヶ月ごとにこの全委員会が集まってもらい活動を調整しています。会長を中心とする少人数の打ち合わせ会は毎月 1、2 回行われ、様々な角度から検討をしています。先ほどの、ビジョナリーカンパニーの話で言えば、「時計をつくる」こと、つまりインフラの整備を中心に活動してきました。漕艇技術の指導については、荒生監督、中村助監督、生出ヘッドコーチ、中林コーチが忙しい中、毎週土曜日、戸田で熱心な活動を続けてくれています。今年はインカレで付きフォアとシングルスカルが出場しました。10 月 3 日、4 日には新人戦があり一年生 5 名が付きフォアで出場の予定です。

インフラ整備に関して今までの実績は、まだ多いとは言えませんが、次第に手ごたえを感じています。新人の勧誘については現役の意識がかなり変わったのではないかと思います。旧艇の処分もかなり進み、艇庫代が約 20、30 万円、年間換算で減少しました。今、使用されず管理費（年 17 万円）だけが発生しているマンションの用途を考えるのも大きな課題です。現役の皆さんとのコミュニケーションは、毎週一回の合同練習に、我々 O B も一部参加し、その後、共に食事を取りながら話を聞くとか、共同の会議を数回開き互いの意見を交換するなど進み始めていると思います。平野さんのウエイトトレーニング指導も好評だったようです。その中でつくづく感じることは、年代は違って

も、考えている基盤は同じだということです。理工ポート部での活動は我々一人ひとりにとって忘れることの出来ない「青春」であり、各自の「核」を形成していることは間違いありません。理工ポートで得た友人、先輩、後輩は、利害関係なしの真の人間関係を形成していると思います。皆それぞれ O B 会への思いは多少違っても知れませんが、理工ポート部は大好きですし、仲間に出会うことに無上の喜びを感じます。先日東日本選手権の応援で、林さんや素谷さん、松村さん、向坊さん等に卒業以来 38 年ぶり位にお会いしました。話をしていると学生時代にタイム・トリップしあの頃と全く同じ気分になり毒舌がポンポン出て、実に気持ちが良い。まさに「心のふるさと」という安心感があります。

皆さん、お仕事で大変お忙しいとは思いますが、是非 O B 総会（11 月 3 日、大隈会館 1：00～3：00）に出席をお願いいたします。まず現状をご理解頂き、今後どのように O B 会を発展させていくべきかを議論して頂きたいと思えます。各委員会からの活動報告と今後の方向性について皆様の貴重なご意見を頂き、今後の活動に反映させたいと思えます。O B 会について様々な意見があることを我々は理解しています。理工ポートの特徴の一つは、運動クラブであるのに活発な議論のあることだと思います。人によっては不満の気持ちをお持ちの方もいるとは思いますが、この際、学生時代の若く、おらかな気持ちに戻り、多様性をベースに大いに議論すべきと考えます。「心のふるさと」が何時までも健全な形で継続できるように行うべきことはシッカリ行い悔いを残すべきでは無いと思います。インフラの整備が進めば、レースに勝てる時がまた来ると思います。「時計をつくる」ことに今は全力をかけますが逆に「時を告げない時計は無い」わけですから。